

## 1. 作業の趣旨

この文書は、『百科全書』第2巻メタデータを新規に抽出するための作業マニュアルです。

第1巻のメタデータ抽出および検証作業を通じて浮き彫りになった課題をふまえ、作業方法に若干の変更がありますが、基本的な内容に変化はありません。第3巻以降についても、ほぼそのまま妥当する記述を心がけました。また、初めてこの作業に参加される方にも分かるよう書いているため、作業経験のある方にとってはすでにご承知の内容も含まれています。あらかじめご承知おき下さい。

長いマニュアルになっておりますが、疑問点が生じたらその都度該当箇所の記述を読んでいただくことで、十分作業に当たれるものと思います。

なお、マニュアル中の実例画像は、基本的に第1巻のものを使用しています。

## 2. 作業に必要なもの

実際の作業においては、以下のものが必要となります。

- (1) 百科全書第2巻メタデータ抽出マニュアル (PDF 文書) : このファイルのことです。共通サイトにも載せておきます。
- (2) Metadata-t.2-ver.1- (エクセル 2003 文書) : 作業用のファイルです。共通サイトからダウンロードして下さい。アドレスは <https://digital-encyclopaedia.projectpath.com/> です。
- (3) 『百科全書』第2巻画像データ : 処理前と処理後の二種類の画像があります (詳しくは後述)。担当箇所は小沢研サーバで閲覧可能です。アドレスは <http://encyclopedia.aut.ac.jp/> です。ID と PW については、別途ご案内申し上げます。
- (4) Schwab の *Inventory of Diderot's Encyclopédie* (PDF 文書) : 『百科全書』の目録です (詳しくは後述)。(2) と同じく、共通サイトからダウンロードして下さい。

## 3. 最終申込・分担・連絡網・謝金

このマニュアルをご覧のうえ、作業に参加するかどうか最終的にご判断下さい。参加される方は、希望分担量をお申し付けいただければ、その点を考慮して分担を決めさせていただきます。(A) 少なめ (20 ページ)、(B) 普通 (30 ページ)、(C) 多め (40 ページ) の三段階を設定します。ただし、参加希望者の人数によって、数字に多少の変動が生じることは、あらかじめご承知おき下さい。

最終申込の期限は 2009年1月10日 (土) です。この日までに、[metadata18@gmail.com](mailto:metadata18@gmail.com) 宛てにお申し込み下さい。過去に協力していただいた方も、改めて申込手続きをして下さいますよう、お願い申し上げます (自動エントリーにはなりません)。申込状況をもとに分担箇所を決め、1月20日 (火) をめどに分担箇所をお知らせ致します。

情報交換には、インターネット上の「Encyclopaedia Project」サイト (共通サイト) を活用します。上にも記しましたが、アドレスは <https://digital-encyclopaedia.projectpath.com/> です。作業中に生じた疑問点は、このサイトに設置される「Messages」コーナーの Q&A 専用スレッドでお尋ね下さい。疑問点は共有することが全体の利益になりますので、個別にメールで問い合わせることは、できる限り避けて下さい。「こんなつまらないことを聞くのは恥ずかしい」と考えないで下さい。同じように疑問を感じている人が他にもいるかもしれません。ただし、質問する前にマニュアルを読み直していただきますよう、お願い申し上げます。このマニュアルは PDF 文書です。先に紙媒体で入手した方も、共通サイトからファイルをダウンロードして、文書内を検索してみてください。紙媒体のページを繰るよりは、目指す説明を見つけやすいと思います。

新規参加者の方には、ID と PW を別途ご案内申し上げます。

作業協力者の皆様には、1 ページ当たり 500 円の謝金を用意しております。

#### 4. 提出方法と提出期限

期限の少し前に、共通サイトの「Messages」コーナーにファイル提出用のスレッドを立てます。最初の発言へのコメントという形で、作業成果を反映したエクセルファイルをアップロードして下さい。詳しい方法については、スレッドの中で案内します。ご自身の担当箇所の行のみを提出していただきます。

提出期限は2009年3月15日（日）です。厳守のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 5. 全体的な留意点

##### (1) 作業用エクセルファイルについて

このマニュアルの説明を参考にして、ダウンロードした作業用エクセルファイル(Metadata-t.2-ver.1-)上で作業をお進め下さい。一部のデータ（項目名、Schwab コメントなど）は機械的に処理したものが入力済みです。したがって、第1巻のメタデータ抽出作業時とは異なり、最初から「検証」という側面があります。

##### (2) 画像データについて

上述の通り、画像データは二種類あります。

##### A. 処理前データ（オリジナル画像ファイル）

『百科全書』の本文をそのまま取り込んだ画像です。後の処理の必要上、欄 colonne を単位に切り取って、それを再びつなぎ合わせてありますが、見た目には通常のページ画像と変わりありません。処理済み画像ファイルにおいてエラーが発生している可能性がありますので、最終的には必ずこちらのページ画像ファイルをもとに、入力・修正内容をご確認下さい。

##### B. 処理後データ（行番号付き画像ファイル）

処理済み画像ファイルは、作業の効率化を図るための工夫が施されたファイルです。ファイル名称は、「li 巻番号\_頁番号」です。第2巻1頁であれば、「li02\_0001」となります。

このファイルでは、特定の文字列に色づけがなされているほか、二種類の行番号が添えられています。

加工プロセスにおいて、ページ画像ファイルを行単位で切り取り、角度を補正し、再び行をつなぐという処理がなされています。その際、エラーが発生し、本来あったはずの行が欠落してしまうことがあります。多くの場合、水色の太いラインがエラー発生が目印になります。後述の「行番号」において、最後の数値が「74」より小さいときは、エラーの可能性を疑って下さい。

第1巻の検証作業では、処理後データのエラー報告をお願いしましたが、今回はエラー報告の必要はありません。

<色づけ>

以下の通り、文字列に色が付けられています。項目の開始位置を知るのに役立ちます。ただし、認識精度が完全ではないため、エラーが発生しています。あくまでも参考にとどめて下さい。

- ・ アスタリスク（星印） 青
- ・ ラージキャピタル（通常の大文字） ピンク

- ・ スモールキャピタル (小さめの大文字) 緑

<行番号>

2種類の番号が各欄の左に添えられています。

- ・ 欄内行番号 (上からの行数) : 欄 *colonne* 内で「上から数えて×行目」を表す数値です。標準では「01」から「74」までの数値が記載されています。これはメタデータの「開始位置 (行)」および「終了位置 (行)」にそのまま転記可能な数値です。ただし、上述のように、欠落した行があるかもしれません。最終数値が「74」未満の場合は、ページ画像ファイルと照合して下さい。
- ・ 欄内行番号 (下からの行数) : 欄内で「下から数えて×行目」を表す数値です。標準では「74」から「01」までの数値が記載されています。複数の欄にまたがる項目の「行数」を数えるときに役立ちます。

### (3) Schwab の *Inventory* について

Richard N. Schwab, Walter E. Rex による *Inventory of Diderot's Encyclopédie, in Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, 80, 83, 85, 91-93, Oxford, The Voltaire Foundation, 1971-72. は、私たちのプロジェクトにとって絶対に欠かせない偉大な先駆的業績です。二人は数十年をかけて、誰もが思いつかなかった『百科全書』全項目のメタデータ記述という、途方もない作業を完成させました。

第1巻のメタデータ抽出作業においては、協力者の皆様の手入力により、データの転写を行っていました。今後は、まず私たち事務局で下処理を行い、皆様の作業負担軽減を図ります。具体的には、Schwab の *Inventory* のデータをスキャナで読み取り、文字認識ソフトを用いて解読し、その結果を作業用エクセルファイルに転記しました。

ではここで、実例をもとにして *Inventory* の解読方法を簡単に説明します。第1巻の42-43ページにかけて存在する項目について記述した箇所です。

42 [319] ABSOLUTION, *Pardon, rémission*, synonymes AT.xiii.181, Proust, 558 \* .2  
 [320] ABSOLUTION, *Droit* .7  
 [321] ABSOLUTION, *Droit canon*. G .8  
 [322] ABSOLUTION, *Droit canon*. H .4  
 43 [323] 'On donne encore . . .' G (The implication in the phrasing here is that Mallet had read Toussaint's article [322] and was adding to it as

左図 *Inventory*, t.1, p.24 より

*Inventory* では、各項目につき以下の情報が盛り込まれています。すなわち、ページ番号、目録番号、項目名、分類符号、備考その1、執筆者符号、長さ、備考その2、です。

最初の42はページ番号です。この数字は、ページ最初の項目の直前にのみ記されます。42ページには四つの項目がありますが、二つ目以降では42とは記されません。

ブラケット [ ] 内に記されているのが、目録番号です。

その次に項目名が記されます。番号319については、「ABSOLUTION, *Pardon, rémission*」までが項目名です。320から322までは、いずれも「ABSOLUTION」だけが項目名となります。322の '*On donne encore...*' については、「項目名 (B列) について」の「同一項目の途中で執筆者が交替している場合」

をご覧ください。

項目に分類符号がある場合、それが項目名の次に記されます。320の「Droit」や321と322に共通な「Droit canon.」がこれに相当します。ただし、Schwabの表記は原典通りではありませんので、修正が必要になります。

次は備考その1で、『百科全書』内の図版への指示がある場合（PL）や、補遺に同名見出し語の項目がある場合（SU）などについて、注記があります（多くの場合、注記事項はありません）。ここで示した事例では、319の項目に関して「AT.xiii.181, Proust,558」という注記があります。Assézat-Tourneux版ディドロ全集 13巻 181ページにこの項目が採録されていること、Jacques Proustの*Diderot et l'Encyclopédie*の558ページにこの項目に関する言及があることを示しています。もともと、内容を理解する必要はありません。どのような性質の注記事項であるかを把握しておいただければ十分です。

無署名でない項目については、執筆者符号も示されます。319の「\*」、321と323の「G」、322の「H」がこれに相当します。320は無署名なので、符号はありません。「\*」が分かりにくいので、注意を要します。

執筆者符号の後は、長さです。319から322まで順番に、「.2」「.7」「.8」「.4」となっています（数字の意味については後述）。スペース節約のため、1未満の場合は「0.2」の代わりに「.2」のように記されます。さらに、0.1未満の場合は、一切数値が示されません。

最後に、備考その2が丸括弧の中に示されます。備考1のような略号ではなく、英語の文章による補足説明です。

*Inventory*では、数字の「1」がアルファベットの「I」に近い活字になっています。そのため、読み取り時に高い確率で誤読が発生しています。なるべく直すようにはしましたが、漏れているところがありますので、あらかじめご承知おき下さい。

#### （4） 画像データかエクセルファイルを打ち出して作業をすると効率的です

『百科全書』の画像データと検証用エクセルファイルを同時にパソコン上で開くと、あまり作業効率がよくないと予想されます。

- 画像ファイルを紙に打ち出し、それを見ながらエクセルに入力する。
- エクセルファイルを紙に打ち出し、画像ファイルをパソコン上で見ながら紙面上のエクセルファイルにメタデータを入力記録し、あとでその内容をパソコン上のファイルに転写する。

最初の方法は確実ですが、印刷枚数が多くなるうえに、A4程度の紙に『百科全書』のテキストを打ち出しても読みづらいという難点があります。

第二の方法だと、『百科全書』の画像1ページ全体をパソコンのモニタに表示するのが大変ですが、エクセルファイルの印刷枚数は少量で済みます。エクセルファイルはA4横向きで書式設定し、1行のデータ（A列から最終R列まで）が1枚の紙に収まるようにしてあります。先頭の見出し行とご自身の担当箇所だけを残し、他の部分を削除すればよいでしょう。

#### （5） 入力すべき内容が存在しない場合には必ず@を打ち込む

セルに入力すべき内容が存在しないケースがあります。そのようなときは決して空欄のままにせず、欧文フォントで「@」を打ち込んで下さい（和文フォントは避けて下さい）。未入力と間違えないためです。

#### (6) 見た目にすぐ分からない「スペース」に注意

エクセルで作業をしていると、セル内データの先頭や末尾に余分なスペースが入力されていても、それに気づかないことがあります。ところが、このスペースがくせ者で、機械はスペースの有無によって「異なるデータ」と認識してしまいます。

#### (7) セル内改行はしない

これは第1巻からの作業参加者へのお願いです。第1巻用のマニュアルで、エクセルファイルのセル内改行をしていただくよう、指示した箇所がありました。その後の検証作業において、セル内改行のマークが混乱を招くことが判明したため、今後はセル内改行をしないよう、お願いします。

#### (8) 迷ったら記録する

「読み」が要求されるメタデータでは、抽出すべきかどうか判断に迷うケースが出てきます。「迷ったらとりあえず記録する」という原則で作業して下さい。後から消すのは簡単ですが、記録されなかったデータを拾い出すのは困難です。

### 7. 個別のメタデータに関わる留意点

#### (1) 項目名に関するデータ群：アスタリスク（A列）、項目名（B列）、スモールキャピタル（C列）

##### アスタリスク（A列）について

- 本文の項目名にアスタリスクあり → 「\*」を打ち込んで下さい。
- 本文の項目名にアスタリスクなし → 「@」を打ち込んで下さい。
- 行番号付き画像ファイルでは、アスタリスクを青で表示する設定にしておりますが、うまく認識できない場合があります。ご注意ください。

##### 項目名（B列）について

- Schwab の *Inventory* のデータをスキャナで読み取り、文字認識ソフトを用いて解読し、その結果を機械的に転記してあります。
- 項目名以外の要素（分類符号、備考その1、執筆者符号、長さ、備考その2：本マニュアル p.3 参照）も、すべてこの列に埋め込まれています。したがって、それらを適切な位置に移したり、削除したりという手間がかかります。
- 備考に相当する内容を、カット&ペーストでQ列に移すことから始めると、効率的だと思われれます。執筆者符号や分類符号についても同様です。
- 読み取り精度が万全ではないので、項目名の表記にもエラーがある可能性があります。必ず『百科全書』本文画像と照合し、間違いがあれば修正して下さい。
- イタリック体などの書体情報は全面的に欠落しています。修正をお願いします。とくに *ou* に注意が必要です。
- 時として、項目名が長くなり、分類符号をまたいでしまうケースがあります。そのときは、煩を厭わず項目名の切れ目までをすべて記録して下さい。分類符号が重複して記載されることとなりますが、差し支えありません。たとえば、第1巻 p.49a に「ACACIA」という項目があります。品詞 (s.m.) 表記の後に、ラテン語の名称が添えられており、そこまで含めて「項目名」という扱いにします。

したがって、「ACACIA, s.m. en latin *pseudo-acacia*」という記述の仕方になります。Schwab はここまで丁寧に記録していませんので、補足していただく必要があります。

ACACIA, f. m. en latin *pseudo-acacia*, arbre à fleurs légumineuses & à feuilles rangées ordinairement par

- 同一項目の途中で執筆者が交替している場合、Schwab はそれを新たな「entry」と見なし、交替箇所最初の数語を項目名代わりに記録しています。たとえば、第1巻41ページ左欄22行目に「ABSINTHE ou ALUYNE」という項目があります。同30行目に (K) という署名記号があり、ここまではダルジャンヴィル d'Argenville 執筆であることが分かります。そして、次の31行目にディオドロを意味する\*印があり、La grande absinthe...と始まります。Schwab の *Inventory* では、[310]が「ABSINTHE ou ALUYNE」、[311]が「La grande absinthe...」というように、それぞれ別の entry として扱っています。たとえ見出し語が同じでも、執筆者が異なれば別のまとまりとして扱う、という意味です。私たちもこの方針に従います。作業用ファイルでは、Schwab の *Inventory* の記述を転写してありますが、一重引用符「『』」は邪魔になるので、それを除去して下さい。

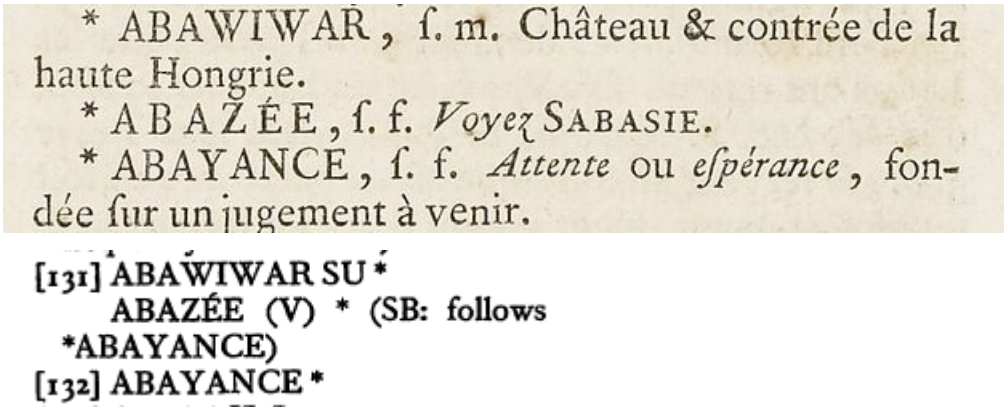
ABSINTHE ou ALUYNE. Il y a quatre fortes d'*absinthe* : la romaine ou grande, la petite appelée *pon-tique*, l'*absinthe* ou l'*aluyne de mer*, & celle des Alpes appelée *génépi*.  
 Cette plante se met en bordure à deux ou trois piés de distance, & se peut tondre. Elle donne de la graine difficile à vanner ; c'est pourquoi on la renouvelle tous les deux ans en fevrant les vieux piés.  
 (K)  
 \* La grande *absinthe* a donné dans l'analyse chimique, n'étant pas encore fleurie, du phlegme liquide,

- Schwab は、自身の *Inventory* に一部の項目を収録しませんでした。他の項目への参照指示しかない場合が、これに当たります。本文項目における初出は「ABAISSE une équation, terme d'Algebre. Voyez ABAISSEMENT.」です（所在位置は第1巻8ページb欄9-10行目）。

ABAISSE une équation, terme d'Algebre. Voyez ABAISSEMENT.  
 ABAISSE est aussi un terme de Géométrie. Abais-

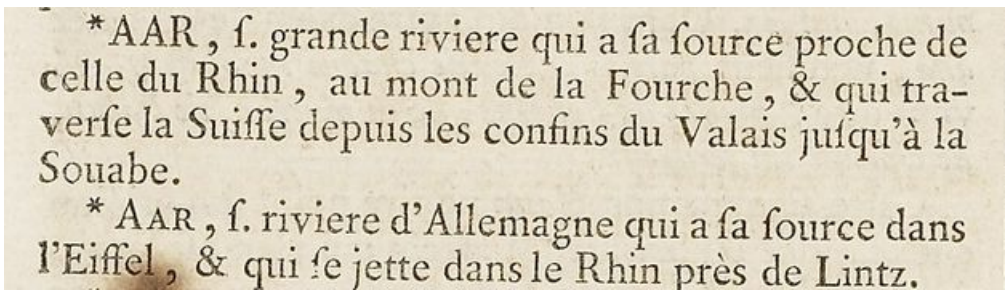
- Schwab はこの項目に「中身がない」と判断しましたが、私たちの作業にとっては、この項目には2種類のメタデータが含まれていることになります。すなわち、「terme d'Algebre」という「分類符号」および「Voyez ABAISSEMENT.」という「本文項目への参照」です（「執筆者」が記されているケースさえあります）。また、現在『百科全書』研究の第一人者である Marie Leca-Tsiomis 教授でさえ、Schwab の *Inventory* にこうした脱落があることをご存知ありませんでした。様々な意味で、こうした脱落項目を復活させることは重要です。Schwab が記録していないわけですから、当然、作業用エクセルファイルにも記載がありません。本文画像データに基づいて、そうした項目を拾い出して下さい。

- ところが、Schwab の方針は一貫しておらず、他項目への参照指示しかない項目を *Inventory* に取り込み、通し番号を割り当てることなく、(V)という記号で示していることがあります。次の例は、第1巻11 ページ右欄48 行目の項目 ABAZÉE およびその前後の項目の画像と、それに対応する Schwab の *Inventory* の記述箇所です。46-47 行目の項目 ABAWIWAR (SU は項目名の一部ではありませんのでご注意を) には[131]番、49-50 行目の項目 ABAYANCE には[132]番という番号が振られていますが、間の ABAZÉE には番号がなく、(V)という記号があるだけです。このようなケースでは、項目名に関するデータは作業ファイルに記載済みで、目録番号 (J 列) が空欄になっています。番号の扱いについては後述します。



スモールキャピタル (C列) について

- 項目名冒頭の見出し語にスモールキャピタルが使用されているときは、「PC」と打ち込みます (*petite capitale* の略)。スモールキャピタルとは、通常より小さめの大文字のことで、『百科全書』ではいくつかの意味が込められています。項目名にスモールキャピタルが使用されるのは、同じ見出し語が続くときです。たとえば、第1巻6 ページ左欄の36 行目に「\*AAR」という項目があります。これはすべて通常の大文字です。40 行目には同じく「\*AAR」という項目がありますが、こちらは二文字目以降がスモールキャピタルになっています。皆様にお渡しする画像ファイルでは、スモールキャピタルに特別な色分けがなされています。それを参考になさってください。ただし、機械の読み取り精度には限界がありますので、視認をしていただきますよう、お願い申し上げます。作業用エクセルファイル上では、B列の項目名を実際にスモールキャピタルにする必要はありません。



- 項目名が普通の見出し語ではなく、文の冒頭数語になっているとき (=Schwab が新たな「entry」と見なしているとき) は、「IN」と打ち込みます (*intervention* の略)。
- 項目名の最初の見出し語が通常の大文字のとき (上記「PC」や「IN」に当てはまらないとき)、「@」を打ち込みます。二文字目以降の見出し語に小文字が混じっていても構いません。
- スモールキャピタルを含む見出し語と途中介入の見出し語を識別することによって、「親見出し語」

を持つ項目だけを抽出することが可能になります。これは、Leca-Tsiomis 教授が重視している点であり、『百科全書』の「項目数」の概念に新たな光を当てることが期待されます。

### その他項目名に関する注意喚起

『百科全書』の本文最終巻 (t.17) には「Articles omis」と題する追加項目が存在します。Schwab の *Inventory* ではこれらの項目が本来の位置に収録されていた場合を想定して、項目名を [ ] に入れて書き出しています (備考その1で「AO」と記されています)。初出は *Inventory* の p.30 右側で、通し番号 714 の ACTES (116a49-116a56) と同 715 の ACTES DES APÔTRES (116a57-116a49) に挟まれた ACTES D'ARCHÉLAUS が該当します。所在位置情報から明らかなように、714 と 715 の間には項目が存在しません。ACTES D'ARCHÉLAUS という追加項目が正しくアルファベット順に配置されていたらここに来ます。

116 [714] ACTES O. II  
 [ACTES D'ARCHÉLAUS,  
*Hist. eccl. AO D] 3.2]*  
 [715] ACTES DES APÔTRES,  
*Théol. .9*

作業用エクセルファイルでは、Schwab をもとに項目を拾ったので、これら追加項目もデータベース化されています。対応する項目が本文画像にないからといって、あわてる必要はありません。なくて当然なのです。

『百科全書』全巻のメタデータを電子化できれば、Schwab が行ったように「本来の場所」に位置づけてやる必要はなくなります。今回の作業では、こうした項目はそのまま放置しておいて下さい。

### (2) 所在位置に関するデータ群：D列からI列まで

全部で六つのデータ群によって、項目の所在位置を示します。作業用エクセルファイルでは、

「開始位置頁」(D列)

「開始位置欄」(E列)

「開始位置行」(F列)

「終了位置頁」(G列)

「終了位置欄」(H列)

「終了位置行」(I列)

の六つが該当します。本文画像データをもとに、数値を入力して下さい。処理済み画像データには、行番号が添えられています。「開始位置行」(F列) および「終了位置行」(I列) の入力にお役立て下さい。ただし、ここでも機械による読み取り精度の問題を忘れるわけにはいきません。行の数え方については、「長さ」列のところで詳しく説明します。

### (3) 目録番号 (J列)

「目録番号」列には Schwab の *Inventory* で割り振られた通し番号が入力済みです。念のため、PDF化された Schwab の *Inventory* と照合して下さい。

他の項目への参照指示しかない項目については、Schwab が *Inventory* に取り入れていないわけですから、当然のことながら通し番号が存在しません。しかし、番号がないのは整理上不都合であるため、小数点付きの番号を割り振ることにしました。先ほどの例 (第1巻) で言うと、「ABAISSER une équation」

は「61」の「\*En un mot...」と「62」の「ABAISSER」の間にあります。この場合は「61.2」とします。住居表示の「bis」の感覚です。省略された項目が二つ以上あるときは、二つ目を「～.3」とします（以下同様に増やします。）「～.1」はありません。（62の ABAISSER はスモールキャピタルで表示されています。このことは、61.2の ABAISSER une équation が親見出しであることを示しています。これを項目として採取すべきであることが、この点からも正当化されます。）

上述の通り、Schwab が気まぐれでこうした項目を Inventory に取り入れていることがあります。その場合は項目名がB列に記載済みですが、目録番号のJ列は空欄ですから、前段落の説明通りに番号を補って下さい。

#### （４）長さ（K列）

「長さ」（K列）は行数によって表示します。Schwab は「欄」を単位として長さを表記していました。「1 colonne = 74 lignes」が基本ですから、「8.1」なら「8 colonnes + 1/10 (= 7 ou 8 lignes)」の分量をもつ項目ということになります。この記述法はいかにも恣意的であり、行数表示が勝ります。

<項目が同一欄内で完結している場合>

作業用エクセルファイルには、K列に関数が設定されています。これは「=[終了位置の行番号] - [開始位置の行番号] + 1」という式になっています。たとえば、ある項目が11行目に始まり、22行目に終わっているとします。すると、F列に「11」、I列に「22」と入力した時点で、自動的に「22-11+1」を計算し、「12」という正しい値が入力されます。したがって、改めて行数を数える必要はありません。

なお、作業開始前の段階では、開始行も終了行も空欄なので、「0-0+1」の結果である「1」が入力されていますが、エラーではありません。

<項目が二つ以上の欄にまたがっている場合>

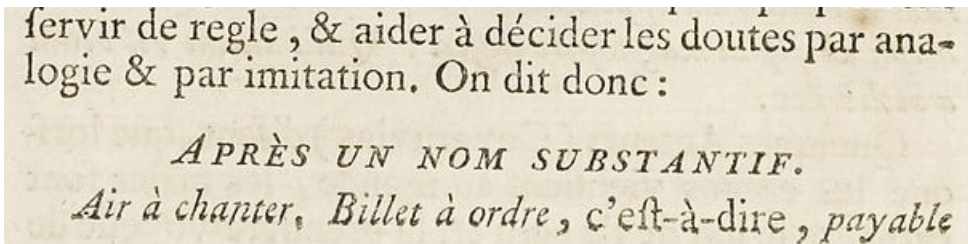
この場合、関数によって長さを自動入力させることはできません。たとえば、第1巻の項目「AB」は、6ページ左欄49行目に始まり、同ページ右欄10行目で終わっています。関数に任せると、「10-49+1」の結果である「-38」という数値が記録されています。これでは意味をなさないの、自分で長さを計算する必要があります。

このとき、処理済み画像ファイルの「下からの行番号」が威力を発揮します。第1巻6ページ左欄は70行あり、49行目は「下から22行目」に当たります。したがって、「22+10」を計算すればよいことになります。ただし、計算結果のみを入力することは避けて下さい。後の検証作業に支障が生じるためです。セル内に直接「32」という数値を打ち込まず、「=22+10」という計算式を打ち込むようにして下さい。先頭に「=」と入力し、後は各欄の行数を「+」記号で並べます。合計値は自動的に記入されます。

<『百科全書』における「行」の概念>

以下の記述は、第1巻の画像データをもとにしてはいますが、第2巻以降についても妥当します。

『百科全書』は「1 colonne = 74 lignes」を基本として活字が組まれています。たとえばp.2の左の欄は74行あります。しかし、右の欄は73行と1行少なくなっています。これは下から2行目の「APRÈS UN NOM SUBSTANTIE」の上下に少し空白があるため、このような小見出しや長めの引用によって行数にずれが生じる場合がありますので、十分ご注意下さい（ちなみにp.3の左欄は71行、右欄は72行です）。



行数を数えるときには、本文以外の行を入れないよう注意が必要です。本文以外の行とは、各欄の上部にある「ページ番号」と「大文字3文字（場合によっては2文字か1文字）」、下部にある製本指示のための文字などです。

ページ番号についてはとくに説明の必要はないでしょう。

『百科全書』の各欄上部には、そこに存在する項目の冒頭3文字が印刷されています。これは本文の外枠ですので、行数に含めないで下さい。

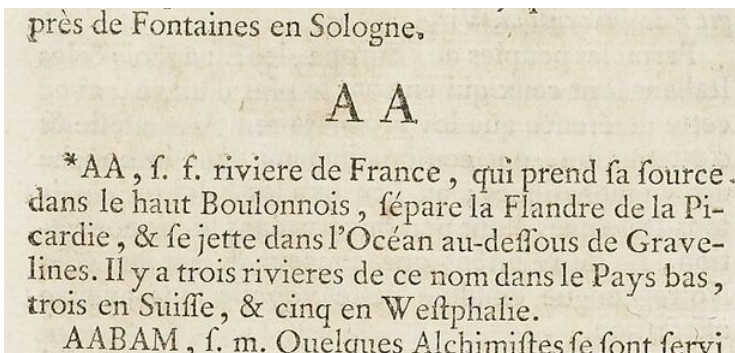
時には、こうした文字が本文中に現れることもあります。たとえば、p.6の左欄には「AA」と「ABABA」という二つの見出し文字があります。これらは行数に入れます。項目の行数には無関係ですが、所在位置を記録するときには、このルールが重要です。p.6左欄で言うと、

17行目：près des Fontaines en Sologne.

18行目：AA

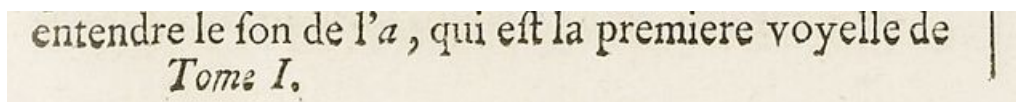
19行目：\*AA, s.f. riviere de France, qui prend sa source

となります。したがって、項目\*AAの所在位置は「6,a,19」から「6,a,23」までで、長さは「5行」ということとなります。

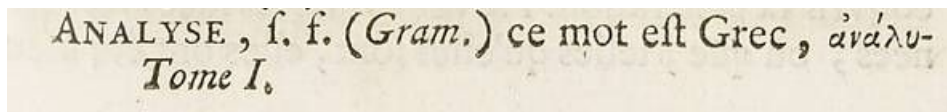


次に製本記号について説明します。『百科全書』は8頁を一組として製本されており、それぞれの組において以下のような指示があります。具体例は(pp.1-8 / pp.401-408)のものです(写真はpp.1-8)。

1頁目左下にある「巻番号」(例：Tome I. / Tome I. 第1巻全体を通じて共通)

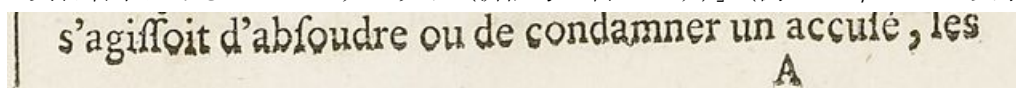


p.1

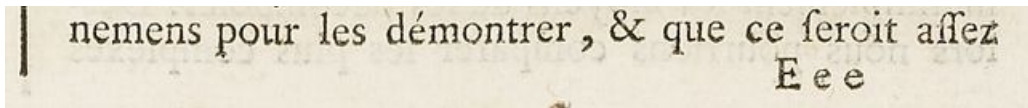


p.401

1頁目右下にある「アルファベット(折記号と言います)」(例：A / Eee 文字が変化)

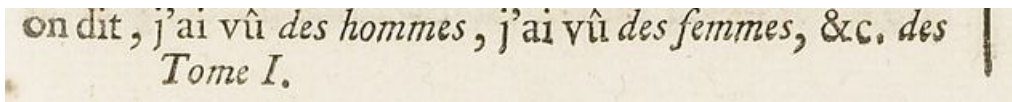


p.1

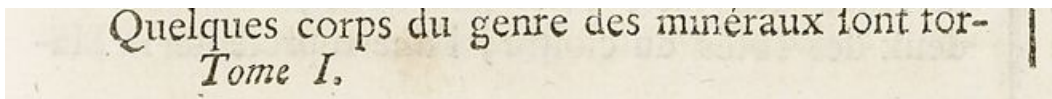


p.401

3 頁目左下にある「巻番号」(例: Tome I. / Tome I. 第1巻全体を通じて共通)

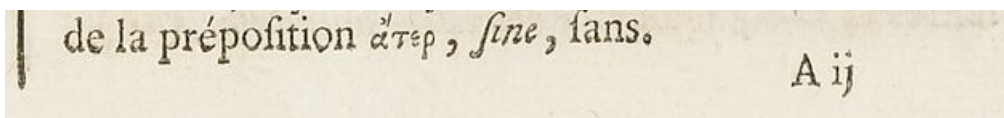


p.3

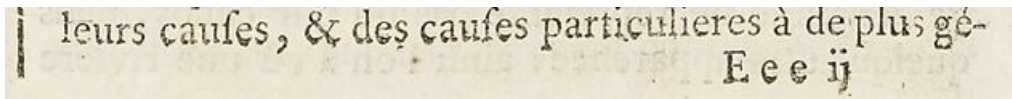


p.403

3 頁目右下にある「アルファベット+ローマ数字(折記号)」(例: A ij / Eee ij 文字が変化)



p.3

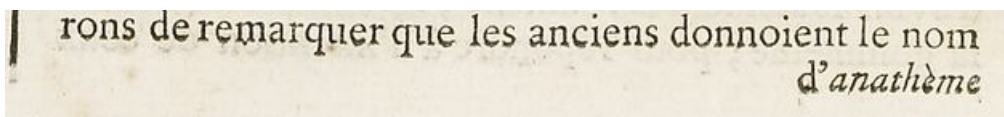


p.403

8 頁目右下にある「次頁の最初の単語の先取り」(例: On / d'anathème)



p.8

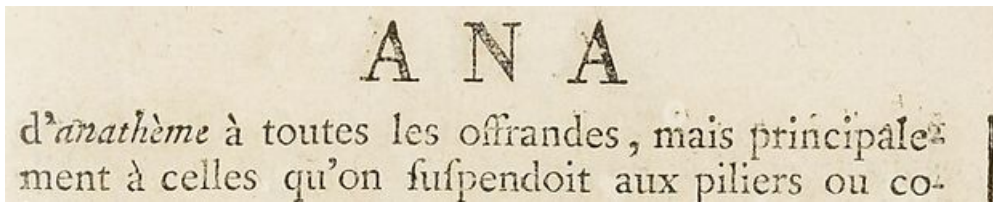


p.408

(次の写真は p.9 と p.409 の冒頭。最初の On が直前頁の末尾に印刷されており、製本業者はこれで間違いがないかどうかをチェックします。)



p.9

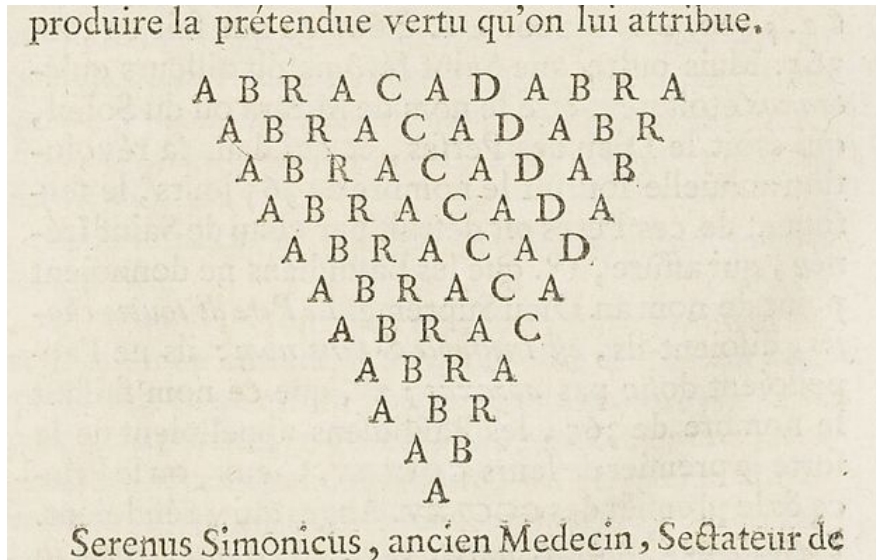


p.409

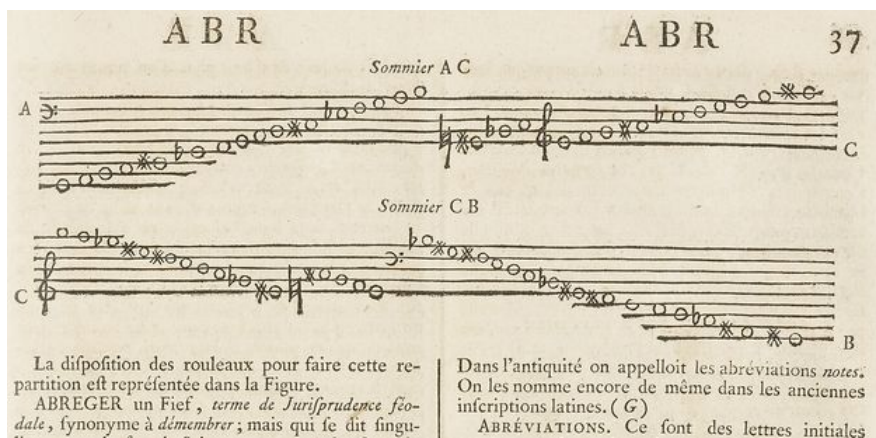
これらは製本のために必要な文字であり、本文ではありません。項目の行数に入れないようにして下さい。p.3 の左の欄の本文最終行は「on dit, j'ai vû des hommes, j'ai vû des femmes, &c. des」であり、これが71行目に当たります。その下の「Tome I.」は72行目ではありません。p.408 の「d'anathème」などはとくに間違いやすいので、注意が必要です。

項目内に図表があると、「行」の数え方に悩みます。図表が純粹に文字列から成るときは、それらの行数を数えて下さい。文字列でないときは無視して下さい。それぞれ一例ずつ掲げます。

文字列の図表の例は p.33 の右の欄にあります。項目\*ABRACADABRA (33b49-34a23) にこの呪文が逆三角形に記されています。これは 11 行と数えます (59 行目から 69 行目まで)。したがって、項目全体の行数は、33b では 49 行目から 73 行目までの 25 行、34a で 23 行、合計 48 行となります。



文字列でない図表としては、p.37 の上部に左右の欄にまたがった楽譜の例があります。これは項目 ABREGÉ の一部ですが、行数には含めず無視して下さい。したがって、ABREGÉ は 36a48 に始まり、37a2 で終わっていることとなります。欄ごとにとまとめると、36a では 48 行目から 73 行目までの 26 行、36b では 72 行全部、37a が 1 行目から 2 行目までの 2 行となり、合計が 26+72+2=100 行となります。



(5) 品詞と性 (L列)

「品詞と性 (オリジナル表記) (L列) には、項目の後に記載されている品詞と性 (性は名詞の場合のみ) の略号を、オリジナル通りに記載して下さい。substantif の略号である s は f に似た s long が使用されていますので、その点ご注意願います。

一つの品詞を指す語句内部にはスペースを入れないようお願いします。たとえば「s.m.」では「s.」と「m.」の間にスペースを入れません。スペースを入れた方が見栄えもよく、本文でもスペースがあるように見えますが、どこまでが一つのまとまりを成しているかを明確にするため、「スペースなし」を徹底して下さい。ただし「s.m. pris adj.」のようなケースでは「s.m.」「pris」「adj.」という三つの固ま

りの間にそれぞれ半角スペース一つをご記入下さい。半角スペースを「」で表すと、「s.m. pris adj.」となります。

「.」の後が自動的に大文字になる「オートコレクトのオプション」が有効になっていないかどうか、ご注意願います。ツールバーから「オートコレクトのオプション」を選択し、「文の先頭文字を大文字にする」のチェックボックスを外しておけば、自動的に大文字になることはありません。

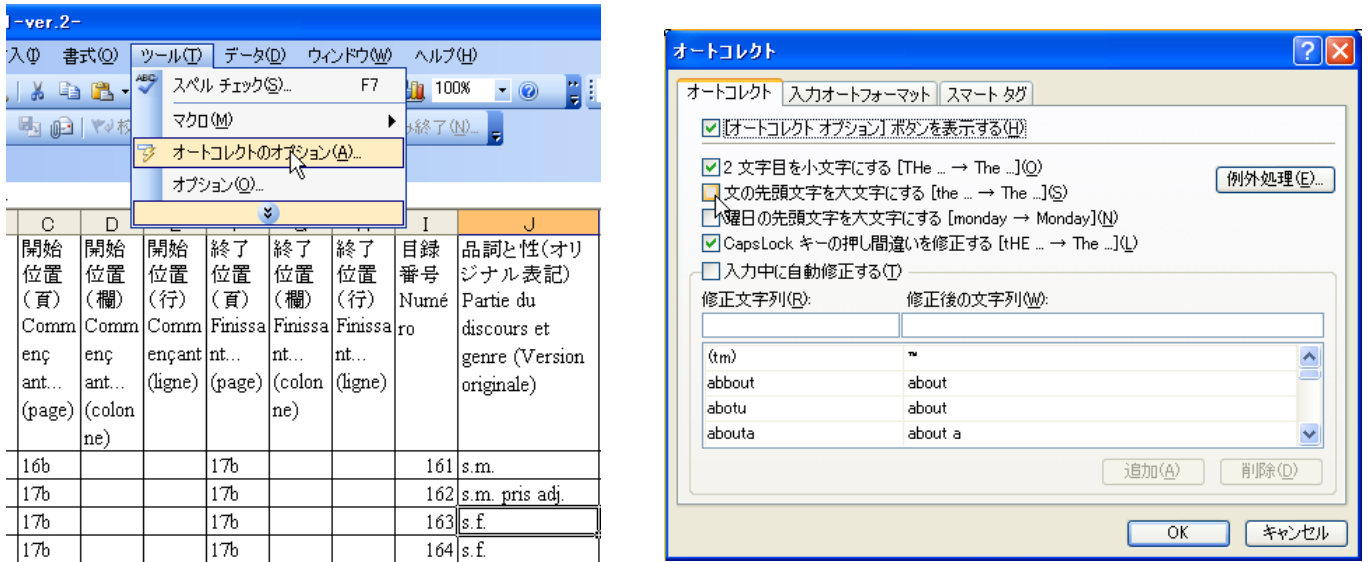


図 オートコレクトのオプション (Excel 2003 の設定画面)

データベースとして使用するためには、オリジナル表記のノーマル化が必要ですが、その変換作業は事務局で一括して行います。

### (6) 分類符号 (M列)

『百科全書』の項目はアルファベット順に配列されていますが、ディドロたちは第1巻巻頭に「人間知識の体系詳述」という折り込み図表を付けて、知識の有機的な分類・配列を図示しました。項目見出し語のすぐ次に示されるイタリック体の表記（およびその類似表記）は、当該項目が「人間知識の体系詳述」のどこに位置づけられるかを示しています。この表記は長い場合と、たった一語で済まされる場合とあります。ほとんどがフルスペルではなく、略記です。

分類符号は、参照項目と並んで、現在の『百科全書』研究でもっとも注目されているテーマです。2004年11月には、パリのナンテール大学で、Leca-Tsiomis 教授の主催により、分類符号だけをめぐる国際研究集会が開催されたほどです。将来、第1巻巻頭「人間知識の体系詳述」と個々の「分類符号」との間にネットワークが張られれば、素晴らしい成果になり得るでしょう。

Schwab による記述を機械的に転写したものがB列に入力済みですが、あくまでもオリジナルを尊重してお書き下さい。綴りの間違いがあったり、現在では使用しない正書法で記されたりしている場合も、原文通りに記入して下さい。変換はノーマル化作業（事務局担当）の際に一括して行います。

符号が二つ以上あるときは、間に「★」という記号を入れて下さい。全角の黒い星印です。日本語入力状態で「ほし」と打ち込んで変換すると、候補として表示される場合が多いようです。

ところで、分類符号の抽出においては、ある程度「読み」が要求されます。機械的にできる作業ではありません。本文第1巻 p.10 の項目を例にとって説明します（項目名の後に Schwab の目録番号と開始位置の欄と行を記します）。

典型的な分類符号は項目名の後に ( ) に入れて示されます。\*ABASTER (102, a28) の「(Métamorph.)」や ABATANT (107, b9) の「(Métier à faire des bas.)」などがその例です。

\* ABASTER, ( Métamorph. ) l'un des trois chevaux du char de Pluton. C'est le noir. V. METHEUS & NONIUS.

ABATANT, ( Métier à faire des bas. ) On donne ce nom aux deux parties ( 85 96 ) ( 85 96 ) fem-

terme de ... という表現も頻出します。ABATAGE (105, a60) の「terme de Charpentier.」や ABATELEMENT (110, b33) の「terme de commerce」がこれに該当します。

ABATAGE, terme de Charpentier. Quand on a une piece de bois à lever, on pouffe le bout d'un

ABATELEMENT, f. m. terme de commerce usité parmi les François dans les Echelles du Levant. II

その他にも\*ABARNAHAS (97, a11) の「dans quelques Alchimistes」や ABATAGE (104, a39) の「Faiseur de bas au métier」、ABATIS (112, b55) の「Les Carriers」、ABATIS (113, b60) の「dans l'Art Militaire」なども分類符号と見なすことができます。「Faiseur de bas au métier」は「(Métier à faire des bas.)」と実質的に同じですし、二つの同名項目 ABATIS では「Les Carriers」と「dans l'Art Militaire」が識別マークとなっていることが分かります。

\* ABARNAHAS, terme qu'on trouve dans quelques Alchimistes, & sur-tout dans le *Theatrum chemicum* de Servien Zadith. Il ne paroît pas qu'on foit en-

ABATAGE, fixieme manœuvre du Faiseur de bas au métier. Elle consiste dans un mouvement assez lé-

ABATIS, f. m. Les Carriers appellent ainsi les pierres qu'ils ont abatues dans une carrière, soit la bonne pour bâtir, ou celle qui est propre à faire du moilon. Ce mot se dit aussi de la démolition & des décombres d'un bâtiment. ( P )

ABATIS, c'est dans l'Art Militaire une quantité de grands arbres que l'on abat & que l'on en-

以上のような「読み」には個人差が生じます。『百科全書』の編集方針が明確でない以上、ある程度恣意的になるのはやむを得ませんが、「項目冒頭付近に大文字で表現されている語句があれば分類符号である可能性を考える」という方針を採用して下さい。そして「迷ったときはとりあえず記録する」という原則に立ち返って下さい。セルにコメントを付けておいていただければ、最終的な処置を私たちで判断致します。

## (7) 執筆者同定 (N列)

『百科全書』では、項目執筆者は基本的に符号で示されます。フルネームで表示されることはほとん

どありません。符号は項目末尾に、( ) に入れて示されます。ダランベールは(O)、ルソーは(S)といった具合です。大文字と小文字も区別されています。たとえば、(A)は Boucher d'Argis ですが、(a)は Lenglet du Fresnoy です。( ) を外し、符合だけを入力します。Schwab による記述を機械的に転写したものがB列に入力済みです。

ディドロだけは例外で、項目末尾のアルファベットではなく、冒頭の \* によって識別されることになっています。アステリスク列 (A列) でも「\*」が入力されていますが、この列でも「\*」を入力します。

「\*」については、OCR による読み取りの際に脱落してしまうことが多く、B列に記載されていない危険が高くなっております。基本的には、A列 (アステリスク) に「\*」があれば、このN列でも「\*」が入ることになります。

一つの項目が複数の執筆者によって書かれている場合、各執筆者名を「★」で分けて下さい。このようなケースは、事実としてはほとんどありませんが、印刷上のミスなどによって時折発生してしまいます。たとえば、第1巻項目\*ABACUZ (目録番号 51, 7a41-7a47) は項目冒頭にディドロ執筆を意味する \* があり、末尾に Toussaint の印である (H) という記号があります。

\*ABACUZ, f. m. pris adject. ce font les biens de ceux qui meurent sans laisser d'héritiers, soit par testament, soit par droit lignager, ou autrement, & dont la succession passoit, à ce que dit Ragueau, selon l'ancienne Coutume du Poitou, au bas Justicier de la Seigneurie dans laquelle ils étoient décédés. (H)

Schwab のコメントによれば、\* は間違いであろうということですが、それは推測の域を出るものではありません。重要項目の執筆者同定は、それだけで論文一本のテーマになりうるほど大きな問題です。軽々しく判断することは避けなければなりません。私たちとしては、「判断材料を提供する」という立場を維持しようと思います。この場合であれば、アステリスクが間違いである可能性が高くても、ディドロとトゥーサンを執筆者として記録に残し、「\*★H」と入力します。

Schwab の *Inventory* は、こうした執筆者同定の問題に逐一言及しています。したがって、このメタデータについては、『百科全書』本文だけでなく Schwab の *Inventory* もご参照下さい。そこに [ ] があれば、それは本文該当箇所以外をもとに執筆者同定がなされているという印です。この [ ] は残して下さい。たとえば、項目 ABAISSEMENT ou ABATTEMENT への介入箇所が 8a73-8b8 にかけて存在します。冒頭の En un mot の前には \* があり、末尾には (Y) があります。これだけでもすでに面倒ですが、Schwab は (Y) は (V) の間違いであろうと推測しています。そのため、*Inventory* では「\* Y [V?]」という書き方をしています。「執筆者同定 (オリジナル表記)」では Schwab をふまえ、「\*★Y★[V?]」と三種類のデータがあることが分かるように記入します。

Schwab の *Inventory* で紛らわしいのが大文字の X と上付き文字の x です。前者は Yvon の略号で、後者は Errata 等で執筆者同定が取り消されたことを示す印です。項目 A (番号 24, t.1, 5b27-5b29) の末尾には (Y) という略号が見えますが、第1巻最終ページの Errata に「effacez (Y)」という指示があります。このことをふまえ、Schwab では「Y<sup>x</sup>」と記されています。

それでは、『百科全書』それ自体によって執筆者同定を取り消された場合はそれを尊重して訂正後の情報を載せればよいかというと、事はそう単純ではありません。他ならぬ「XX」という印を付けられた項目で検証しましょう。項目 ACTION (番号 730, t.1, 118b70-119b12) は、Schwab によれば疑いの余地な

くイヴォンが書いたものです。執筆同定が取り消されたのは、この項目が論争を引き起こしたからにすぎません。だとすれば、データベースでは ACTION とイヴォンとの関わりを示すことが必要です。

なお、「品詞と性」や「分類符号」と同じく、ノーマル化作業は事務局で一括して行います。

### (8) 本文項目への参照 (O列)

『百科全書』の項目の中で、別項目への参照を指示することがよくあります。普通はイタリック体の *Voyez*、*Voy*、あるいは *V.* などに導かれて参照項目名が示されますが、たった一項目にしか送らない場合、数が多い場合など、さまざまです。

参照指示が出現するたびに、その箇所のページ、欄の左か右 (a か b)、行、を丸括弧内にお書き下さい。「ARTICLE(page,colonne,ligne)」となります。項目名と丸括弧の間のスペースはなし、ページ、欄、行はカンマで区切り、それぞれの間にスペースは入れません。参照先項目名が複数の行にまたがっているときは、先頭行の数値を記します。同一欄内に同じ項目への参照指示が複数回登場すれば、その都度拾っていただくこととなります。なお、*Voyez*、*Voy*、あるいは *V.* といった参照を導入する表現は記述から省いて下さって結構です。また、複数にわたる項目指示の場合、原文通りに、繋ぎの&印などを使いますと、後で間違いや混乱を誘発しますので、列挙される場合は、項目名の間に★を打ち込んで下さい。最後の「&c」は無視して構いません。

写真は第1巻の6ページ左欄23-25行目の項目 AABAM の全文です。項目への参照指示が四つあります。この場合、「PLOMB(6,a,24)★SATURNE(6,a,25)★ACCIB(6,a,25)★ALBARIC(6,a,25)」と記入することになります。

AABAM, f. m. Quelques Alchimistes se font servi de ce mot pour signifier le plomb. *Voyez* PLOMB. SATURNE. ACCIB. ALBARIC. (M)

また、*Voyez* の後に名詞ではなく、より長い語句が来る場合もありますが、それが明らかに参照指示であれば拾って下さい。次の例は第1巻の8ページ左欄36-40行目です。「chacun de ces mots à son article(8,a,40)」と記入します。

La diminution, en dégradant une partie par l'addition d'une tache ou d'une marque de diminution, comme une barre, un point dextre, un point champagne, un point plaine, une pointe fenestre, & un I gouffet. *Voyez* chacun de ces mots à son article.

こうした作業は、少なくとも現段階のIT技術では絶対に実現不可能で、私たち文系研究者の読みや共同性が問われる、最重要の正念場です。*Voyez* などが手がかりになりますが、ある程度丁寧に本文を目で追っていただく必要があります。

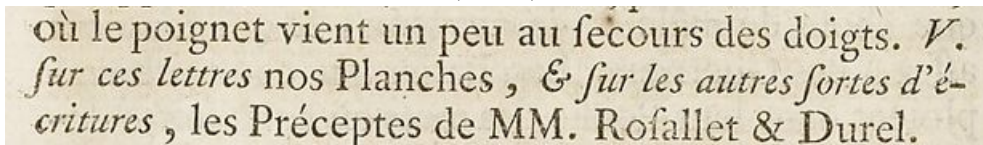
### (9) 図版への参照 (P列)

Schwab のデータに時々「PL」という略記があります。これは Planches (図版) の略で、項目中に図版項目への参照指示が含まれていることを意味します。『百科全書』は、昨今の百科事典と違い、テキストの巻(17巻)と図版の巻(11巻)とが別立てになっているのです。本文項目への参照も同じですが、実在しない図版への言及もあります。ですが、そうしたことには一切構わず、とにかく言及があればその通りに写して下さい。所在情報の記入方法については、項目への参照指示(O列)に準じます。

いくつか実例を示します。

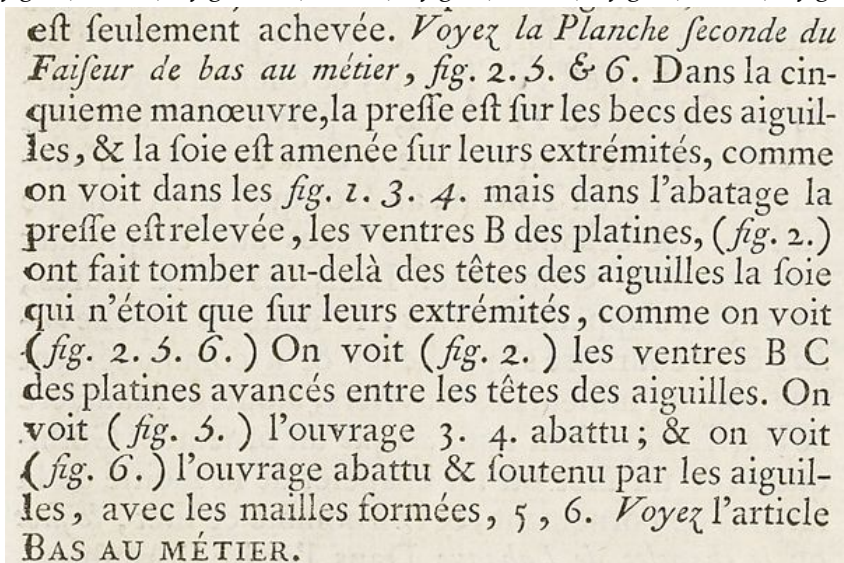
(例1)

第1巻6ページ左欄13-15行目：13行目に「見よ」を意味する「V.」があり、14行目に *Planches* という文字が見えます。「Planches(6,a,14)」と記入します。



(例2)

第1巻10ページ左欄46-59行目：図版への参照指示が多く見られます。記入方法は次のようになります。「la Planche seconde du Faiseur de bas au métier, fig.2.5 & 6.(10,a,46) ★fig.1.3.4.(10,a,50)★fig.2.(10,a,51)★fig.2.5.6.(10,a,54)★fig.2.(10,a,54)★fig.5.(10,a,57)★fig.2.(10,a,58)」

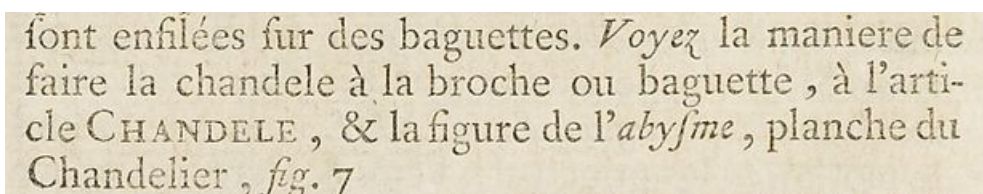


項目への参照とは異なり、当該項目に関する図版に指示を出しているという前提に立っているので、単に「Planches」や「fig.」といった漠然とした記述になりますが、それは致し方ありません。むしろ、所在情報が役に立つと見込まれます。

図版の巻を実際にご覧になった方はご存知でしょうが、一つのテーマに関する *Planches* は複数の *figures* から成り立っています。ここで記入するのは *figures* のレベルまでで十分です。figure内の細部に関するアルファベットの指示については、きりがないので採録しないことにします。

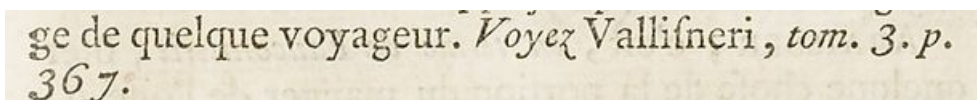
(例3)

第1巻26ページ右欄70-73行目：これは応用編です。項目と図版への参照指示がまとめて登場します。O列には「CHANDELE(26,b,72)」、P列には「la figure de l'abysme, planche du Chandelier, fig.7(26,b,72)」と記入します。



## (例4)

第1巻7ページ左欄19-20行目：これは *Voyez* の後にあるのが、文献名である場合です。本文項目への参照でも、図版への参照でもありません。したがって、O列にもP列にも取り込みません。将来的には、「本文に明示された典拠情報」として収集すべきメタデータですが、当面は除外します。



ge de quelque voyageur. *Voyez Vallifneri, tom. 3. p.*  
367.

## (10) 備考 (Q列)

ここには Schwab の *Inventory* に記されたコメントを打ち込みます。項目名とコメントの境界が分かりにくいので、その点に注意が必要です。B列に打ち込まれたコメントを転記するのが簡単でしょう。

## (11) 作業者コメント (R列)

作業中、何かお気づきの点がありましたら、この列にコメントをご記入下さい。